付章●区民

第一節●人口

●はじめに――これまで述べてきた各編においては、市民（区民）動向を昭和の初めから記述をはじめ、戦中・戦後、それも区民自らによる接収解除運動の一部に筆を止めたが、もとよりこのことは、区民動向の一端にすぎず、しかも一定時期を述べただけなので、ここに付章を設けて最近の人口・仕事・町の組織のそれぞれの概要を述べることとした。

この章で扱う人口や区民の就業についてはその一部分についてだが統計にもとづいて述べておきたい。

人口の変化という現象は、「その社会の自然的・社会的、あるいは経済的諸条件をよく反映して現われる」（横浜市刊『横浜市人口のあゆみ』五十四年三月）といわれている。ここでは人口についてことさらに深く触れることはしないが、普通人口統計については人口静態と人口動態の両面から常時把握されている。

●人口静態――人口静態というのは、出生や死亡、居所の移転など、地域にとって日々刻々に変動を示す人の数を特定の年月日時刻に止めて観察することで、国勢調査、その他の人口調査がこれである。しかし、ひと口に人口調査といっても、常住人口、現在人口、推計人口、それに夜間人口、昼間人口というように分類・区分して調査されている。

常住人口というのは、例えば何町、何町というように、特定した地域に常に住む人々の数であり、現在人口というのは、国勢調査の際など特定の年月日及び時刻に、その特定の地域に居る人すべてを、その地域の人として捉えるもので、例えば一時的な仮住いのような場合でもその地域に居れば、現在人口とされる。推計人口というのは既存の国勢調査数を基にしてその上に出生・死亡・転出の人を増・減して推算するものである。また夜間人口というのは常住人口とほぼ同義であり、これに対するのが昼間人口である。昼間人口は、地域の居住者が地域の外に通勤・通学（流出）する人口と、逆に地域外の居住者が地域のなかに通勤・通学で入ってくる（流入）人口との差を求めて、その差に、地域内の常住者が地域で就職・就学している人口を加えたものである。

こうした人口静態・人口動態の統計は、国をはじめ県や市の行政の施策のための基本的な資料とされているが、この人口の態様はすなわち市民動向の一端を如実に示しているといえよう。ここでは、その一部を概観したい。

第一回国勢調査の記念に―大正9年石川町にて〈落合辰五郎氏提供〉

◉人口の推移――明治二十二年の市制施行時の横浜市の総人口は一二万一、九八五人、人口密度（一平方キロメートル当り）は二万二、五九八人であった。この人口は、ほぼ現在の中区の人口と同じであるが、人口密度は現在、日本一という東京都中野区の二万一、七一三人を越す状況であった。

次いで明治三十四年の第一次市域拡張（第一章「素顔の中区」参照）で、面積が約五倍に増加するとともに、人口は二九万九、二〇二人に、四十四年の第二次拡張によって面積は七・五倍になると同時に、人口は四四万四、〇三九人と増加、人口密度は面積の増加にともない一万三、〇〇〇人台となった。大正十五年になっても人口はほぼ横ばいで、四一万一、五〇〇人。昭和二年、第三次拡張によって一挙に五二万九、三〇〇人と増加した。

◉区制後――この年の十月、区制がしかれたが、以下**表1**に示す中区は二八万四、一四六人（昭和二年十二月一日現在）で、全市五二万九、三〇〇人の五三・七パーセントに相当していた。人口密度も八、四九〇人、全市平均の三、九五四人をはるかに上回っていた。中区に人が集中していた様子が容易に理解できる。

その後、人口は少しづつ伸び、昭和十七年（一九四二）十月には三九万二、三九二人に達したが、十八年十二月、南区を分離して、三一・六パーセント減少の二六万八、二一二人となった。さらに十九年二月、二六万四、九一七人であったものが、同年四月西区の分離と、その上二十年の終戦に伴う区内中枢地域の接収に

より、二十年十一月には実に八三・七パーセントの激減、わずか四万三、二三五人になった。人口密度も一万五、九六九人から一挙に三、七四三人となった。まさに戦後中区の苦渋が偲ばれる。

◉戦後――しかし二十一年四月には二八・四パーセントの伸びを示し、戦後初二十二年十月の国勢調査には、前年の三八・八パーセント増となった。これは、人々の疎開先からの復帰、戦場からの復員などによる増加、荒廃地の復興整備などに作業要員が一時的に集中したことなどが要因であった。

二十八年一〇万人台の人口となった中区は、以後の埋立地の増加や、区内郊外部の住宅開発など、さまざまな要因により、四十三～四十四年には一三万八、〇〇〇人台に達したが、四十五年十月の国勢調査では、今度は都心部ばなれの傾向をみせて減少が始まり、ついに五十一年には一三万人台を割り、五十八年現在では一二万人台となった。その減少は今もつづいている。

◉世帯数――世帯あたりの家族数については、単純に人口を世帯数で除して一世帯当りの人口を求めると、昭和五年（一九三〇）の国勢調査（以下同じ）による一世帯四・〇五人は、昭和十年、十五年になっても大きな変化はなかったが、二十一年（一九四六）十一月には三・七三人と減少、二十二年四月には四・三三人、以後三十年には四・二八人とほぼ戦前にもどっていったが、三十五年から四十五年には三人台に落ち込み、ついに五十年（一九七五）にはそれを割り二・八五人と減少、五十五年二・六〇人、五十八年には二・五一人となり中区においても核家族化の顕著な傾向を示している。

こうしたことは全市的な傾向であって、中区だけの現象ではないが、常に全市平均のすれすれか下回っていたもので、現在もなお同じ状態である。例えば三十年一世帯当り人口は全市で四・五一人に対して中区は四・二八人。四十年は全市三・六五人に対して中区三・六七人、五十年全市三・七六人に対して中区は二・八五人という状況である。

◉町別の人口推移――次に戦後から国勢調査による町別人口の推移は**表2**のとおりだが、この表によっても、町単位の人口の動きがうかがえる。なお、表の末尾の水面というのは、船での水上生活者である。

例えば、福富町西通、福富町仲通、福富町東通、万代町、不老町、翁町、扇町、寿町、松影町、山吹町、富士見町、山田町では二十五年（一九五〇）には町に一人も居住がない。これは、米軍の接収によって居住が出来なかったことを物語っている。そしてこのような状況が三十年にいたっても翁町・扇町・寿町にわずかな居住者があったほかは、居住者ゼロの状況がつづいていた。

これと反対に、本牧和田では二十五年、三十年には居住人口がそれぞれ七人、二八人であったが、米軍接収（二号接収地）がこの町域全部に行われ、三十五年にはゼロとなり、解除後の五十八年にようやく三人の居住者があり、現在に到っている。同様のこ

とが本牧十二天にもいえる。

また海岸通、小港町に急増が見られるが、これは団地造成によるもの。反対に横浜公園のように五十年には三〇人の居住があったが、園内の施設とりこわしによってゼロになったもの。尾上町や真砂町のように、四十五年、五十年にかけて減少したのは、既設の建物が高層化されたことにより、居住する場がなくなったことなどを意味している。

さらにこれに対して仲尾台、滝ノ上、矢口台のように土地の開発、分譲住宅の増加による人口増が見られる。

◉**昼夜間人口**——次に中区（西区の場合も同様）の特徴である昼夜間人口比をみると、次表のようになっている。国・県・市の官公庁、企業を多く持っている関係から、昼間人口が急速に多くなっている。このことは中区のビジネスセンター地区としての充実を意味するものといえる。そして、現在の市・区行政においては、昼間人口が多いことを課題として各種の施策が行われている。

昼・夜間人口比表

年度	夜間人口	昼間人口	比	備考
	人	人		
30	100,925	157,686	148.9	夜間人口を100とする
35	123,624	182,362	147.3	
40	136,882	219,196	160.1	
45	132,470	224,045	169.1	
50	131,346	238,554	181.6	
55	121,476	233,642	192.3	

◉**人口構造**——人口構造はさきに触れたように、男女別・年令別・配偶関係別・職業別のほかおよそ一〇数種が組み合されて考察されるのだが、ここでは産業別・就業別構成だけとして、その一部については次の節で述べる。

◉**人口動態**——人口動態は、さきに述べたように、社会増減と自然増減の二つの要因によって把握されるが、社会増減は市外との転出・入（市外移動）、市内（各区と中区）への転出・入（市内移動）。自然増減は出生と死亡で、これらをプラス、マイナスして算出される。

◉**社会増減**——表3には社会増減を二十二年から最近までをあげたが、その人数にはバラツキがあって一概にはいえないが、三十九年からは減少し始め、四十七年（一九七二）には二、〇〇〇人台となった。このことは、区内の土地価格の上昇ほか、住宅購入の困難さによって転入が容易でないことを示している。

これをすこしこまかくいえば、市外移動は転出する人よりも転入する人が多く、市内移動は逆に市内から入ってくる人よりも、区外に転出してゆく人の方が多い傾向を見せている。

戦後、市外移動で一番多いのは、二十二年で、終戦直後には表のように人口の移動が多かったことが判る。

◉**自然増減**——一方自然増減についても一概にはいえないが、出生については波があるようで、表でみるように、二十五年から三

(昭和2年～58年)

昭和年月日	面積 (km²)	世帯数	人口 総数	人口 男	人口 女	人口増△減率(%)	人口密度 (1km²当り)
36. 10. 1	10. 1	33,361	127,271	63,561	63,710	3.0	11,253
37. 〃	〃	34,533	130,204	65,057	65,147	2.3	11,512
38. 〃	〃	35,388	132,611	66,222	66,389	1.8	11,725
39. 〃	〃	36,140	134,713	67,209	67,504	1.6	11,911
◎40. 〃	13.31	37,289	136,882	70,562	66,320	1.6	10,284
41. 〃	〃	38,560	137,984	70,489	67,495	0.8	10,367
42. 〃	13.32	39,590	138,481	70,760	67,721	0.4	10,396
43. 〃	16.96	39,942	138,342	70,823	67,519	△ 0.1	8,157
44. 〃	17.57	40,830	138,341	71,080	67,261	0	7,874
◎45. 〃	17.91	42,146	132,470	67,071	65,399	△ 4.2	7,396
46. 〃	18.20	42,102	133,207	67,540	65,667	0.6	7,319
47. 〃	〃	42,093	132,678	67,443	65,235	△ 0.4	7,290
48. 〃	18.21	41,921	130,736	66,502	64,234	△ 1.5	7,179
49. 〃	〃	41,821	129,281	65,707	63,574	△ 1.1	7,099
◎50. 〃	18.35	46,062	131,346	66,968	64,378	1.6	7,158
51. 〃	18.45	45,033	129,287	65,884	63,403	△ 1.6	7,007
52. 〃	〃	44,575	127,511	65,068	62,443	△ 1.4	6,911
53. 〃	18.47	44,063	125,860	64,261	61,599	△ 1.3	6,814
54. 〃	〃	43,713	123,811	63,216	60,595	△ 1.6	6,703
◎55. 〃	18.48	46,711	121,474	61,789	59,685	△ 1.9	6,577
56. 〃	〃	46,788	120,516	61,360	59,156	△ 0.8	6,521
57. 〃	18.57	46,988	119,475	61,053	58,422	△ 0.9	6,427
58. 〃	〃	47,148	118,413	60,604	57,809	△ 0.9	6,370

(注) ◎は国勢調査，昭和9年以前は公簿調査，16，23の各年は常住人口調査，19，20，21の各年は人口調査，ほかは推計人口調査。 (横浜市統計書，中区役所資料により作成)

表：1　中区の人口推移

昭和年月日	面積 (km²)	世帯数	人口 総数	人口 男	人口 女	人口増△減率(%)	人口密度 (1km²当り)
(昭和2年10月1日区制施行により中区誕生)							
2. 12. 31	33.47	66,779	284,146	…	…	…	8,490
3. 〃	〃	69,800	302,504	158,120	144,384	6.5	9,038
4. 〃	〃	73,580	307,795	160,537	147,258	1.7	9,196
◎ 5. 10. 1	〃	73,167	329,678	172,343	157,335	7.1	9,850
6. 12. 31	〃	…	383,583	199,585	183,998	16.4	11,461
7. 〃	〃	…	379,877	197,602	182,275	△ 1.0	11,350
8. 〃	〃	…	391,604	202,003	189,601	3.1	11,700
9. 〃	〃	…	425,300	223,519	201,781	8.6	12,707
◎10. 10. 1	39.87	75,372	348,941	178,662	170,279	△18.0	8,752
11. 〃	48.78	76,631	354,800	181,000	173,800	1.7	7,273
12. 〃	〃	77,516	358,900	182,400	176,500	1.2	7,358
13. 〃	〃	78,210	362,800	183,700	179,100	1.1	7,437
14. 〃	〃	78,790	365,500	184,600	180,900	0.7	7,493
◎15. 〃	〃	84,220	386,020	196,155	189,865	5.6	7,913
16. 〃	〃	88,254	386,019	189,732	196,287	△ 0	7,913
17. 〃	〃	89,770	392,392	192,410	199,982	1.7	8,044
(昭和18年12月1日，南区分離)							
18. 12. 1	16.59	63,649	268,212	128,401	139,811	△31.6	16,168
19. 2. 22	〃	63,649	264,917	126,206	138,711	△ 1.2	15,969
(昭和19年4月1日，西区分離)							
(昭和20年9月，区中心部米軍が接収)							
20. 11. 1	11.55	11,567	43,235	21,879	21,356	△83.7	3,743
21. 4. 26	〃	13,486	55,498	28,499	26,999	28.4	4,805
◎22. 10. 1	〃	17,770	77,014	41,104	35,910	38.8	6,667
23. 8. 1	〃	18,924	83,580	44,196	39,384	8.5	7,236
24. 10. 1	〃	19,968	85,659	42,923	42,736	2.5	7,416
◎25. 〃	11.88	21,389	89,813	44,633	45,180	4.8	7,560
26. 〃	〃	22,481	94,430	47,384	47,046	5.1	7,949
27. 〃	〃	23,198	97,178	48,669	48,509	2.9	8,180
28. 〃	〃	23,823	100,155	50,235	49,920	3.1	8,431
29. 〃	〃	24,160	101,981	51,029	50,952	1.8	8,584
◎30. 〃	11.31	24,692	105,925	52,833	53,092	3.9	9,366
31. 〃	〃	25,329	107,575	53,543	54,032	1.6	9,511
32. 〃	〃	26,222	110,035	54,786	55,249	2.3	9,729
33. 〃	〃	27,534	113,957	56,711	57,246	3.6	10,076
34. 〃	〃	29,490	119,609	59,486	60,123	5.0	10,576
◎35. 〃	〃	32,991	123,624	61,404	62,220	3.4	10,931

（昭和25年～58年）

町名	昭和25年	30年	35年	40年	45年	50年	55年	世帯数	58年	世帯数
千歳町	23	44	60	57	59	109	109	43	74	34
三吉町	2	17	130	187	245	296	276	186	291	218
石川町	5,567	6,095	5,826	5,914	5,324	4,619	4,036	1,429	3,781	1,395
山手町	2,350	2,451	2,834	3,046	3,675	4,187	4,327	1,444	4,401	1,446
諏訪町	387	362	383	411	405	374	348	114	356	122
妙香寺台	454	592	698	709	684	625	550	216	535	217
麦田町	1,278	1,524	1,552	1,545	1,392	1,429	1,267	467	1,195	444
上野町	2,316	2,625	2,845	2,908	2,801	2,557	2,265	771	2,124	732
千代崎町	2,443	2,818	3,017	3,070	2,893	2,898	2,630	882	2,435	841
北方町	1,745	2,226	2,216	2,451	2,391	2,180	1,963	708	1,859	680
小港町	1,166	1,336	3,401	3,711	3,450	3,156	2,869	1,015	2,788	1,031
本郷町	3,013	3,563	3,956	4,208	4,084	3,964	3,619	1,240	3,540	1,245
本牧町	6,066	7,306	8,188	8,711	8,360	8,044	7,618	2,694	7,384	2,660
錦町	—	—	—	—	1,504	5,610	5,528	1,884	5,076	1,747
本牧ふ頭	—	—	—	—	474	409	198	138	193	148
本牧十二天	255	0	1	0	0	0	0	0	0	0
本牧緑ケ丘	358	513	766	966	1,304	1,764	1,690	546	1,629	540
本牧満坂	346	699	1,056	1,297	1,841	1,954	1,852	611	1,799	613
本牧荒井	244	285	293	273	534	639	634	203	607	193
本牧和田	7	28	0	0	0	0	0	0	3	2
本牧三之谷	1,923	2,210	2,322	2,539	2,489	2,370	2,294	757	2,157	730
本牧大里町	908	1,254	1,249	1,872	1,818	1,877	1,753	615	1,771	620
本牧元町	3,619	3,583	3,635	3,719	4,405	4,463	4,298	1,464	4,166	1,434
豊浦町	—	—	—	—	17	3	12	3	2	1
間門町	2,232	2,318	2,619	2,996	2,948	2,852	2,928	993	2,925	1,001
柏葉	1,343	1,776	2,104	2,364	2,304	2,228	2,112	301	2,055	798
かもめ町	—	—	—	—	50	97	77	81	51	22
鶯山	645	800	814	955	1,038	1,106	1,152	467	1,202	501
竹之丸	736	1,380	1,875	2,117	2,393	2,461	2,463	908	2,511	929
西竹之丸	1,187	1,540	1,827	1,950	2,025	1,909	1,872	690	1,839	676
大和町	1,126	1,565	1,635	1,867	1,898	1,749	1,487	564	1,418	562
立野	710	757	893	1,098	1,170	1,101	1,053	394	978	382
西之谷町	1,366	1,751	2,196	2,378	2,557	2,412	2,149	779	2,093	780
打越	929	1,129	1,254	1,402	1,346	1,264	1,177	444	1,154	456
山元町	3,411	4,154	4,428	4,570	4,433	4,074	4,004	1,489	3,943	1,597
大平町	804	939	1,143	1,374	1,511	1,389	1,274	447	1,238	463
大芝台	211	252	379	422	490	477	402	153	377	146
簑沢	1,490	2,132	2,286	2,336	2,299	2,224	1,998	697	1,955	712
塚越	319	229	178	139	232	134	211	61	193	64
寺久保	393	490	604	649	584	591	498	168	491	177
仲尾台	318	470	565	763	805	1,319	1,178	404	1,139	387
滝之上	478	494	874	887	1,068	1,389	1,456	555	1,513	572
矢口台	211	312	582	760	1,112	1,394	1,393	523	1,346	520
豆口台	1,289	1,413	1,576	1,629	1,933	2,044	1,958	702	1,914	737
池袋	239	346	304	416	951	890	963	278	916	271
根岸台	0	0	0	0	0	0	0	0	12	4
根岸旭台	159	131	147	247	190	1,018	1,071	350	1,151	375
根岸加曽台	51	58	49	433	426	383	346	131	464	163
根岸町	2,140	2,096	2,226	2,682	2,559	2,454	2,345	844	2,186	757
千鳥町	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0
水面	1,463	1,245	1,227	1,028	142	75	41	24	41	24

（各年10月1日現在）

表：2　町別人口推移表

町名	昭和25年	30年	35年	40年	45年	50年	55年	世帯数	58年	世帯数
総数(人)	89,813	105,925	123,624	136,882	132,461	131,342	121,474	46,711	118,413	47,148
日本大通	94	68	75	40	40	28	15	5	12	3
横浜公園	4	16	21	19	14	30	0	0	0	0
新港町	2	2	28	21	13	6	2	2	5	5
海岸通	75	35	1,012	1,077	1,261	1,268	1,126	610	1,039	600
元浜町	7	29	84	140	126	144	88	40	69	39
北仲通	193	254	238	218	401	362	355	134	320	135
本町	76	85	211	101	92	40	35	15	33	16
南仲通	31	47	102	71	69	50	37	14	25	9
弁天通	24	174	502	454	407	407	314	151	263	112
太田町	12	70	221	334	319	176	141	75	91	61
相生町	101	271	697	552	468	355	286	115	265	107
住吉町	12	176	630	615	630	441	313	143	260	119
常盤町	8	174	598	585	540	368	310	134	268	126
尾上町	654	238	227	163	151	85	67	27	45	20
真砂町	13	34	131	154	28	17	32	24	24	17
港町	65	160	83	68	31	9	30	25	27	24
山下町	6,006	6,761	7,719	7,955	6,289	6,007	5,429	2,048	5,703	2,137
元町	3,168	3,238	3,132	2,863	2,665	2,445	2,075	739	2,007	748
新山下町	3,444	4,258	4,088	4,805	—	—	—	—	—	—
新山下一丁目	—	—	—	—	2,307	1,997	1,815	688	1,825	717
新山下二丁目	—	—	—	—	1,737	1,455	1,303	456	1,226	457
新山下三丁目	—	—	—	—	480	367	370	150	367	141
内田町	0	0	0	0	0	1	8	7	8	7
桜木町	233	369	183	150	106	101	80	41	59	26
花咲町	2,288	2,284	2,268	1,949	1,521	1,241	1,016	376	950	395
野毛町	2,367	2,436	2,520	2,217	1,520	1,380	1,130	416	1,003	400
宮川町	1,146	1,457	1,304	1,015	1,038	788	692	259	651	280
日ノ出町	1,426	1,912	1,782	1,657	1,344	1,172	990	411	918	397
初音町	1,404	1,638	1,621	1,428	1,148	995	811	270	775	268
黄金町	488	574	438	380	268	121	95	42	76	32
英町	546	573	688	612	558	466	430	160	437	182
赤門町	499	554	554	615	582	494	445	171	424	159
吉田町	240	613	638	651	490	343	228	72	224	77
福富町西通	0	0	229	556	593	491	433	208	392	202
福富町仲通	0	0	370	480	429	352	293	135	297	144
福富町東通	0	0	211	268	263	222	184	83	206	95
伊勢佐木町	2,101	2,605	2,387	2,055	1,684	1,439	1,269	442	1,179	449
末広町	124	122	110	88	71	42	29	15	14	10
羽衣町	113	116	253	259	223	167	125	64	124	73
蓬莱町	100	75	131	309	258	205	213	88	219	104
末吉町	1,453	2,248	2,098	1,846	1,837	1,842	1,664	739	1,603	763
若葉町	0	491	561	763	731	517	421	181	551	295
曙町	2,096	2,284	2,186	1,862	1,487	1,002	965	344	1,037	425
弥生町	937	1,142	1,068	1,016	799	741	536	209	558	246
万代町	0	0	96	167	157	224	184	78	176	77
不老町	0	0	345	464	442	463	430	148	452	177
翁町	0	56	250	332	254	164	126	64	110	62
扇町	0	5	542	977	900	934	904	674	898	690
寿町	0	8	1,309	3,843	2,230	2,577	2,254	1,744	2,207	1,811
松影町	0	0	280	3,148	2,518	2,325	2,288	1,927	2,261	2,028
吉浜町	26	72	94	118	183	149	132	49	126	49
長者町	517	893	1,988	2,640	2,470	2,094	1,748	795	1,883	904
山吹町	0	0	77	109	75	69	39	17	37	15
富士見町	0	0	187	257	435	524	457	207	428	190
山田町	0	0	853	1,360	1,166	1,079	968	353	985	357

表：3　人口動態推移

年別	社会増減			自然増減			人口増減
	転入	転出	社会増	出生	死亡	自然増減	
昭和22年	16,545	8,263	8,282	2,179	858	1,321	9,603
23	16,812	14,422	2,390	2,227	704	1,523	3,913
24	21,650	20,993	657	2,351	651	1,700	2,357
25	22,714	19,087	3,627	1,921	636	1,285	4,912
26	22,319	19,379	2,940	1,790	615	1,175	4,115
27	17,317	16,151	1,166	1,662	524	1,138	2,304
28	14,359	12,365	1,994	1,651	598	1,053	3,047
29	12,835	12,282	553	1,504	631	873	1,426
30	13,022	12,367	655	1,456	607	849	1,504
31	11,460	10,865	595	1,455	509	946	1,541
32	12,571	10,492	2,079	1,450	558	892	2,971
33	15,554	10,923	4,631	1,695	571	1,124	5,755
34	13,824	11,127	2,697	1,905	536	1,369	4,066
35	13,012	11,088	1,924	1,915	482	1,433	3,357
36	12,786	11,053	1,733	2,039	455	1,584	3,317
37	13,001	11,459	1,542	2,113	561	1,552	3,094
38	12,297	11,870	427	2,113	455	1,658	2,085
39	12,668	13,159	△ 491	2,354	489	1,865	1,374
40	13,819	13,980	△ 161	2,783	946	1,837	1,676
41	13,595	14,258	△ 663	1,931	544	1,387	724
42	12,613	13,382	△ 769	1,865	609	1,256	487
43	12,727	14,266	△1,539	1,650	504	1,146	△ 393
44	13,332	14,493	△1,161	2,131	652	1,479	318
45	13,318	14,409	△1,091	2,183	696	1,487	396
46	15,727	16,610	△ 883	2,177	668	1,509	626
47	15,834	17,968	△2,134	2,221	737	1,484	△ 650
48	13,813	17,544	△3,731	2,148	714	1,434	△2,297
49	14,193	16,765	△2,572	2,025	714	1,311	△1,261
50	14,355	16,097	△1,742	1,836	744	1,092	△ 650
51	11,907	14,776	△2,869	1,849	811	1,038	△1,831
52	11,004	13,768	△2,764	1,620	738	882	△1,882
53	10,981	13,357	△2,376	1,497	824	673	△1,703
54	10,629	13,126	△2,497	1,422	818	604	△1,893
55	11,018	12,494	△1,476	1,333	833	500	△ 976
56	10,082	11,266	△1,184	1,275	856	419	△ 765
57	9,917	11,434	△1,157	1,200	851	349	△1,168
58	9,958	10,935	△ 997	1,224	864	360	△ 617

十五年まで一、〇〇〇人台がつづくが、以降は一、〇〇〇人台と二、〇〇〇人台のくり返しとなっている。

死亡の場合、これもバラツキが多いが、男女合計で最高は四十年の九四六人、最少は三十六年・三十八年の四五五人である。

第二節◉区民の仕事

◉就業状況――区民の仕事、すなわち就業状況については、人口構造のなかに求めることができる。**表4**は産業大分類別による就業者の状況である。分類は年度により異なっているが、さしたる支障はないので、一貫したものとしてみることにしたい。

総数についていえば、昭和五年、十五年に一三万人～一五万人だったものが、二十二年（一九四七）には三万人台に激減、以来増加し、一〇万人台（昼間）になるのは三十五年（一九六〇）以降となっている。このことは、戦後の産業の低調さを示している。

また、この低調のなかでも、建設業は五、九〇〇人、製造業は五、八六七人で、この二業種だけでも三五パーセントを占め、戦後復興のための建物等建設、物資不足のための物資製造というように、これだけでも戦後が推測される。

さらに、まだ戦後といわれた二十五年の場合、二十二年と総数を比較すると、わずかに三、五二三人の増ではあったが、建設業が五一・二パーセント、製造業も一四パーセントの減少を見せたのにひきかえ、卸・小売業が二一五パーセント、サービス業が一八五パーセントの増加となったことが注目される、このことは商業の復活、朝鮮戦争などによるサービス業の増加が考えられる。

三十年以降は昼・夜間別に示されているが業種によって昼・夜間の差がはなはだしい。例えば電気・ガス水道業をはじめ金融保険業、運輸通信業、公務などである。

昼・夜間人口ともに三十年度は卸・小売業とサービス業、三十五年度以降も卸・小売業がトップとなっている。中区の特性ともみられる。

◉区内の事業所――以上みてきたのは、中区の区民の就業状況、いわば区民の職業であったが、次に昭和二十六年以来、三年毎に行われてきた事業所統計によって中区内の事業所の推移を見てみたい。ここでいう事業所とは、中区内の会社・工場・店舗はもとより、官公署・学校などすべての事業所であって、従業者は中区民はもとより、この統計では昼間人口といわれる市内・市外からの通勤者を含むもので全従業者である。**表5**はその推移を示す。

これを業種毎に大まかに見ると、二十九年（一九五四）は前回の二十六年に比べて、各業種とも大はばに増加した。例えば不動産業の一四五・五パーセント、金融保険業の三六・五パーセント、建設業三五・九パーセント、製造業三二・三パーセント、卸・小売業二一・四パーセントという具合で、これにともなって従業者数も増加した。

別	就	業	者	数
交通業	公務・自由業	家事	その他の産業	
—	—	—	—	
15,032	14,739	6,587	2,191	
—	—	—	—	
17,367	17,871	7,012	896	

製造業	電気・ガス水道業	商業	金融業	運輸通信業	サービス業	自由業	公務及び団体	その他の産業
—	—	—	—	—	—	—	—	—
5,867	163	4,553	411	4,403	4,674	1,138	1,859	3,813

製造業	卸売業小売業	金融保険業	不動産業	運輸通信業	電気・ガス水道業	サービス業	公務	分類不能の産業
—	—	—	—	—	—	—	—	—
5,051	9,801	662		4,568		8,650	4,707	143
6,043	24,141	6,142		22,589		24,231	9,256	10
5,833	15,177	1,137		6,119		12,656	2,018	8
9,641	33,010	7,717		26,398	935	18,866	11,173	23
10,393	20,074	1,423	340	7,902	220	11,635	1,792	18
11,206	42,078	10,009		38,266	2,109	21,712	12,989	60
11,199	22,739	2,316		14,452	271	11,830	1,838	58
13,257	43,476	10,308		36,739	2,081	24,990	13,576	127
11,184	22,433	1,750	792	11,495	310	12,215	2,015	81
13,267	44,585	10,193	2,472	36,291	2,180	28,586	16,192	2,857
9,682	21,505	1,971	1,027	9,874	324	12,148	2,084	2,692
10,797	44,532	11,217	2,887	31,868	2,343	32,768	16,194	2,794
7,497	20,972	1,928	1,054	8,645	296	12,512	2,142	2,678

表：4　産業大分類別就業者数

年度	昼夜間別	産業者					
		総数	農業	水産業	鉱業	工業	商業
昭和5年	昼間	—	—	—	—	—	—
	夜間	135,123	3,159	525	37	39,002	53,851
〃 15年	昼間	—	—	—	—	—	—
	夜間	154,285	3,713	575	116	58,027	48,708
		総数	農業	林業	水産業	鉱業	建設業
〃 22年	昼間	—	—	—	—	—	—
	夜間	33,558	223	16	470	68	5,900
		総数	農業	林業狩猟業	漁業・水産養殖業	鉱業	建設業
〃 25年	昼間	—	—	—	—	—	—
	夜間	37,081	235	7	416	19	2,822
〃 30年	昼間	98,627	239	2	475	29	3,470
	夜間	46,866	212	3	488	12	3,203
〃 35年	昼間	115,946	184	6	569	12	7,412
	夜間	58,862	172	3	449	23	4,418
〃 40年	昼間	149,159	183	36	131	8	10,372
	夜間	70,460	164	38	129	16	5,410
〃 45年	昼間	154,885	122		80	7	10,122
	夜間	67,555	104	3	61	14	5,098
〃 50年	昼間	168,482	96	11	73	9	11,670
	夜間	65,748	74	4	80	15	4,268
〃 55年	昼間	166,912	113	11	76	2	11,310
	夜間	62,123	89	2	56	9	4,243

表：5　中区の事業所推移　　(昭和26年～昭和56年)

業種＼年次	昭和26年		29		32		35		38		41	
	事業所数	従業者数	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)
	(A)	(B)	%		%		%		%		%	
中区総数	6,236	52,170	(11.9) 7,425	60,411	(11.2) 8,292	77,692	(10.6) 8,775	93,020	(11.8) 10,362	113,670	(10.7) 11,048	136,5^4
A～C 農林水産業	2	X	—	—	—	—	—	—	11	71	5	128
D 鉱業	—	—	—	—	—	—	1	X	1	X	1	7
E 建設業	223	2,284	303	3,310	327	4,758	307	5,921	449	8,077	562	11,277
F 製造業	316	3,324	418	3,985	361	4,514	414	6,881	492	6,809	467	6,402
G 卸売業・小売業	3,681	17,291	4,469	23,489	4,899	30,092	5,332	36,832	5,891	45,940	6,103	48,507
H 金融・保険業	115	3,795	157	5,690	186	6,572	199	7,276	241	9,405	279	11,273
I 不動産業	22	212	54	433	94	770	144	858	346	1,434	398	2,001
J 運輸・通信業	299	16,328	347	13,983	456	19,441	476	22,240	650	25,029	780	35,113
K 電気・ガス・水道熱供給業					8	335	10	728	15	1,414	14	2,057
L サービス業	1,578	8,933	1,677	9,521	1,961	11,210	1,892	12,284	2,266	15,691	2,439	19,739
M 公務	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

年次 / 業種	44		47		50		53		56		備考
	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	
中区総数	% (11.1) 12,289	158,262	% (10.9) 13,444	184,145	% (10.5) 14,059	176,316	% (9.3) 15,370	182,841	% (7.0) 16,441	185,641	( )は前年比増加率
A～C 農林水産業	14	94＋X	15	47＋X	14	39	17	69	12	35	
D 鉱業	—	—	1	X	1	3	—	—	1	6	
E 建設業	557	13,043	689	14,649	674	11,944	711	13,390	771	14,008	
F 製造業	456	6,758	501	8,368	505	9,445	516	8,434	499	7,547	
G 卸売業・小売業	7,105	54,945	7,583	56,189	7,746	53,579	8,218	53,943	8,599	54,449	
H 金融・保険業	274	10,065	305	12,050	348	13,479	376	12,298	441	12,739	
I 不動産業	478	2,767	463	3,120	534	3,282	838	3,708	947	3,952	
J 運輸・通信業	812	45,358	957	44,198	1,061	38,216	1,131	38,565	1,180	34,118	
K 電気・ガス・水道熱供給業	12	X	15	2,423	15	2,238	15	2,348	13	2,494	
L サービス業	2,581	23,631	2,838	28,178	3,086	28,974	3,471	33,942	3,895	39,937	
M 公務	—	—	77	14,914	75	15,117	77	16,144	83	16,356	

（昭和56年度民営分）

町別	総事業所数	A～D 農・鉱・林・漁業	E 建設業	F 製造業	G 卸売・小売業	G 飲食店	H 金融・保険業	I 不動産業	J 運輸・通信業	K 水道・熱供給・電気・ガス業	L サービス業	従業者数
山吹町	9	—	2	—	3	2	14	—	—	—	12	96
富士見町	47	—	2	1	14	11	—	4	3	—	12	499
山田町	78	—	4	8	33	9	1	5	3	—	5	555
千歳町	19	—	—	2	13	—	—	—	1	—	3	264
三吉町	18	—	2	3	9	1	—	—	1	1	81	153
石川町	407	—	25	24	164	57	2	32	20	—	63	1,738
山手町	121	—	1	4	18	12	—	15	4	—	7	1,922
諏訪町	8	1	1	—	2	—	—	2	1	—	1	18
妙香寺台	13	—	—	—	—	—	—	6	2	—	35	41
麦田町	134	1	8	7	54	25	2	5	2	—	30	531
上野町	192	—	25	6	90	19	2	7	5	—	38	875
千代崎町	103	—	14	8	34	7	2	5	1	—	32	338
北方町	68	—	7	6	18	1	1	7	4	—	24	259
小港町	91	—	9	4	28	13	1	12	8	—	16	766
本郷町	300	—	18	10	138	25	3	47	7	—	52	1,090
本牧町	455	—	39	22	142	92	7	35	16	1	101	2,205
錦町	90	—	—	9	26	21	—	2	20	—	12	3,871
本牧ふ頭	170	—	—	1	4	11	—	3	129	1	21	4,514
本牧十二天	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
本牧緑ケ丘	15	—	3	3	4	4	—	—	—	—	1	39
本牧満坂	16	2	6	2	2	—	—	2	2	—	—	43
本牧荒井	7	—	1	—	—	—	—	3	—	—	3	10
本牧和田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
本牧三之谷	164	1	6	4	81	24	—	11	5	—	32	659
本牧大里町	44	—	6	3	9	—	—	8	1	—	17	145
本牧元町	218	—	18	14	39	9	2	79	7	—	50	851
豊浦町	11	—	—	4	—	—	—	—	6	—	1	568
間門町	122	—	10	2	40	14	—	25	9	—	22	601
柏葉	67	—	4	3	20	7	—	16	3	—	14	249
かもめ町	117	—	1	11	32	2	—	—	56	—	15	2,792
鳩山	5	—	—	—	—	—	—	—	1	—	4	23
竹之丸	32	1	3	2	6	1	—	9	1	—	9	110
西竹之丸	23	—	1	4	—	1	1	6	3	—	7	70
大和町	168	—	10	7	86	20	2	7	2	—	34	1,043
立野	18	—	2	1	3	4	—	3	1	—	4	80
西之谷町	42	—	5	1	11	2	—	6	3	—	14	121
打越	11	—	—	—	1	—	—	2	—	—	8	32
山元町	276	—	14	7	147	20	2	30	4	—	52	1,136
大平町	57	—	5	4	20	6	—	7	4	—	11	196
大芝台	9	—	1	1	4	—	—	1	2	—	—	24
簓沢	58	2	4	9	18	2	—	5	10	—	8	216
塚越	3	—	1	1	—	—	—	1	—	—	—	11
寺久保	7	—	2	1	—	—	—	2	—	—	2	27
仲尾台	7	—	—	—	3	—	1	1	—	—	2	52
滝之上	14	—	—	—	4	1	—	1	—	—	8	176
矢口台	6	—	2	—	—	—	—	—	2	—	2	51
豆口台	38	—	7	3	11	2	—	1	2	—	12	224
池袋	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	32
根岸台	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	34
根岸旭台	6	—	—	—	—	1	—	—	—	—	5	47
根岸加曾台	4	—	—	—	—	—	—	1	—	—	3	25
根岸町	167	—	13	13	50	25	—	26	4	—	36	1,366
千鳥町	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	334

表：6　町別，産業大分類別事業所数及び従業者数

町別	総事業所数	A～D 農業・林業・漁業・鉱業	E 建設業	F 製造業	G 卸売・小売業	G 飲食店	H 金融・保険業	I 不動産業	J 運輸・通信業	K 水道・熱供給業・電気・ガス業	L サービス業	従業者数
中区	16,225	13	770	494	4,649	3,956	438	944	1,135	7	3,819	161,279
日本大通	185	—	9	5	38	22	17	6	22	—	66	3,939
横浜公園	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	101
新港町	49	—	—	—	3	3	—	—	37	—	6	1,262
海岸通	349	—	17	3	74	39	12	16	92	—	96	7,996
元浜町	95	—	5	1	26	6	2	—	23	—	32	1,133
北仲通	128	—	5	1	31	14	6	6	21	—	44	1,791
本町	384	—	29	5	87	28	26	18	61	—	130	7,972
南仲通	158	—	16	2	20	45	10	8	9	—	48	1,868
弁天通	326	—	27	5	72	62	13	15	25	1	106	4,778
太田町	389	1	16	7	91	74	23	25	21	—	131	4,707
相生町	429	—	16	7	63	183	19	13	9	—	119	4,121
住吉町	435	—	17	9	87	119	15	20	27	—	141	4,327
常盤町	386	—	13	5	53	129	34	26	13	—	113	3,677
尾上町	333	—	23	6	60	27	50	15	13	—	139	7,723
真砂町	219	—	5	2	72	63	14	8	4	—	51	2,730
港町	126	—	2	—	58	29	6	7	23	—	21	1,275
山下町	1,393	1	51	28	360	338	23	39	50	—	303	20,589
元町	403	—	12	23	222	77	2	10	7	—	50	2,686
新山下一丁目	106	—	4	7	33	19	—	—	11	—	32	622
新山下二丁目	71	—	6	7	22	9	—	4	15	—	8	716
新山下三丁目	42	—	1	5	9	2	—	1	23	—	1	860
内田町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桜木町	165	—	3	—	71	40	1	10	4	—	36	1,397
花咲町	283	—	11	9	93	89	5	10	10	—	56	1,753
野毛町	524	—	6	7	109	296	9	9	4	—	84	2,191
宮川町	265	1	5	6	70	121	4	9	2	—	47	1,651
日ノ出町	208	—	10	4	65	64	8	11	4	—	42	1,223
初音町	233	—	11	13	67	97	3	7	1	—	34	764
黄金町	116	—	1	1	8	101	—	1	—	—	4	243
英町	51	—	2	4	13	4	1	9	—	—	18	199
赤門町	51	—	5	3	15	1	3	11	1	—	12	135
吉田町	163	—	4	—	56	48	6	7	2	—	40	1,889
福富町西通	151	—	1	2	27	76	2	2	—	—	41	1,225
福富町仲通	196	—	1	—	18	147	3	4	1	—	22	1,547
福富町東通	106	—	3	—	6	78	1	3	—	—	15	562
伊勢佐木町	656	—	8	5	374	165	10	14	4	1	75	5,338
末広町	72	—	—	1	9	43	3	1	—	—	15	472
羽衣町	77	—	2	—	15	21	7	5	—	1	26	1,796
蓬莱町	91	—	4	3	25	15	4	6	—	—	34	946
末吉町	274	—	13	21	75	66	6	15	7	—	71	1,340
若葉町	161	—	2	6	34	77	1	5	1	—	35	922
曙町	436	1	19	14	39	150	13	19	2	—	79	1,951
弥生町	162	—	7	5	134	63	4	7	5	—	37	834
万代町	70	—	6	2	20	13	3	3	1	—	22	416
不老町	247	—	24	7	80	33	14	22	4	—	63	3,111
翁町	189	—	19	9	59	15	7	13	9	—	58	1,705
扇町	147	—	10	5	44	24	2	13	3	—	46	1,796
寿町	203	—	11	3	31	79	1	8	5	—	65	1,924
松影町	189	—	7	6	49	26	2	9	7	—	83	1,560
吉浜町	55	—	3	2	13	18	—	1	5	—	13	489
長者町	617	1	16	13	168	247	14	33	12	1	112	5,855

そして建設業にあっては三十八年には前回（三十五年）比四六・二パーセント、不動産業では三十二年には前回（二十九年）比七四・一パーセント、さらに三十八年になると前回（三十五年）比一四〇・三パーセント、そして五十三年には前回（五十年）比五六・九パーセント。運輸・通信業は三十八年には前回（三十五年）比三六・六パーセントというようにそれぞれの増加が見られる。

◉**町別の事業所**——次に区内の町別の事業所数と従業者数を五十六年度（一九八一）だけについていえば表6のようになっている。これは官公庁・学校など公営の事業所と従業員（二一五事業所、二万四、三六二人）を除いた民営だけの分だが、総数一万六、二二五事業所、一六万一、二七九人である。

このなかで卸売業・小売業（以下卸・小売業）が一番多く二八・六五パーセント、次に飲食店二四・三八パーセント、サービス業が二三・五三パーセントで、この三業種だけでも全体の七六・五六パーセントを占める。

これらの事業の事務所は、業種毎に、県下或は市内というように広域的に同業組合を結成しているが、卸・小売業を中心として町には商店会が組織されて、商業活動が盛んである。

町別にみると、卸・小売業は伊勢佐木町（三七四事業所）山下町（三六〇）が群をぬき、元町（二二二）長者町（一六八）石川町、山元町、本牧町がこれにつづいている。

飲食店は町域の広さもあって、山下町がトップ。続いて野毛町、長者町、伊勢佐木町である。金融保険業は尾上町と本町に集中。不動産業は本牧元町、本郷町、次いで山下町。運輸・通信業は山下町（二五〇）次いで本牧ふ頭（一二九）海岸通（九二）とつづいている。サービス業では、山下町（三〇三）住吉町（一四一）尾上町（一三九）太田町（一三一）となっている。

これらの業種によって、町の特性がわかる。

また従業者数は、一事業所当り平均九・九人。従業者の集中している地区は、関内地内の三八・八二パーセント、関外地区三七・二四、山手・山下地区で一三・九五パーセントと、この三つの地区で七三・八六パーセントを占めている。

第三節◉区民の組織

◉**区民の組織**——いま、中区における区民の組織は多い。これらの組織の発生はそのときどきの社会事情、法令、或いは県や市の行政施策によるものといえよう。しかし、過去において本市で最も大きく、住民が組織化されたのは衛生組合であった。

◉**衛生組合**——衛生組合が制度として発足したのは、明治二十三年（一八九〇）市制施行後であった。三十年伝染病予防法が公布され、市は伝染病予防のための費用を補助することになったことから衛生組合は町内の衛生事業を充実させ、さらに貧困な人々の

救済、地域社会のための仕事や、市行政の補助的な各種の仕事を行うようになった。

大正十二年関東大震災によって、横浜は広い地域に被害が生じただけでなく、その恐怖のなかからあらぬデマが流布した。地域では、衛生組合員や在郷軍人、そして青年たちによって自警団が組織され、自らの治安を図った。それとともに衛生組合は、避難民の一時収容、食糧や物資の配給などに活躍した。地域によってはその組合の部会である青年部会、或いは独立団体である青年会などが活動の主体となった。やがて各地域の自警団は解散させられ、衛生組合はそのまま残されたが、実際の上では自然発生的に結成された町内会や青年会などが、公的な衛生組合に代って自治活動を行うようになった。市は衛生組合を残しつつ、一方では町内会にたいして消極的ではあったがその育成を図っていった。

◉官製の町内会――昭和十五年、内務省は部落会町内会等整備要領を訓令、市もこれにもとづいてこれまでの地域における町内会と衛生組合内部の町内会事務代行、それに町総代会といった重なり合った三つの組織の一本化に積極的となった。この結果地域に新しく町内会が発足、その下には一〇戸前後をもって隣組が設けられた。そして戦時体制下町内会及び隣組は上意下達の行政の補助組織となった。戦時下の町内会の活動についてはすでに一部を述べたが、**表7**は現在の連合町内会と対比した終戦時の二十年八月の町内会一覧である。

衛生組合員集まる（石川町衛生組合）〈高田重二郎氏提供〉

衛生組合の人々（太田協和衛生組合）〈潤米保太郎氏提供〉

◉戦後の町内会――終戦後の二十二年一月、進駐軍の民主化政策によって、前記の要領は廃止され、つづいてポツダム勅令一五号の公布により、十五年に組織化された町内会は廃止され、市民の市政への自主的参加を進めるための組織として、進駐軍の指導により弘報委員会が生れた。これは市民が行政の実態を知り、意見や要望を自由に出せるという趣旨のもので、全地域から選ばれた個人を委員として、人口一万人にたいして一組織が設けられたものである。

しかし、犯罪の発生、伝染病の流行、配給物資の遅延など、終戦後の社会的混乱は、市の中心部中区では特に多く発生した。政策的に組織された弘報委員会では、問題の解決はもとより町その

表：7　現在と終戦時の町内会対比表　　(町) は町内会，(自) は自治会

現在（昭和59年4月　現在）A			終戦時（昭和120年8月現在）B		
連合町内	町内会・自治会名	世帯数	連合町内	町内会名	世帯数
第1北部地区	花咲町1丁目（町）	180	伊勢佐木西部	花咲1・2（町）	70
	〃　2　（〃）	255			
	〃　3　（〃）	145		花咲3　（〃）	100
	野毛1　（〃）	265		野毛　（〃）	165
	野毛2丁目　（〃）	215			
	野毛3・4会	250			
	宮川町会	260		日ノ出・宮川（町）	80
	日ノ出町（町）	400			
	赤英　（〃）	300		英・赤門・初音・黄金1・2（町）	246
	初黄　（〃）	420			
	桜木町1・2丁目（町）	165			
	〃　3丁目　（〃）	30			
	計	2,885		計	661
第1中部地区	伊勢佐木町1・2丁目　商和会	160	伊勢佐木中部	伊勢佐木第1（町）	116
	伊勢佐木町3丁目　共栄会	70		伊勢佐木3・4・曙1・2（〃） 弥生1・2（町）	120
	伊勢佐木町4丁目　共栄会	100			
	伊勢佐木町5丁目　商栄会	120		伊勢佐木・末吉（町）	170
	伊勢佐木町6丁目　（町）	120		伊勢佐木7・弥生・曙5（〃）	101
	〃　7丁目　（〃）	98		曙・弥生3・4（町）	78
	曙1，2丁目（町）（〃）	195			
	弥生町1・2丁目　（〃）	150			
	曙弥生3・4丁目　（〃）	370			
	曙弥生5丁目　（〃）	116			
	末吉町1・2丁目　（〃）	250		若葉・末吉1・2（〃）	246
	〃3・4丁目　（〃）	390			
	〃4丁目公団あおぞら（自）	105			
	伊勢佐木ハイタウン　（自）	284		吉田・福富東・西・長者町8・9（町）	164
	若葉町　（町）	350			
	吉田町　（〃）	120			
	福富町　（〃）	500			
	羽衣末広（〃）	165			
	蓬莱町　（〃）	80			
	長者町5丁目　（町）	96			
	〃　6丁目	62			
	〃　7・8・9（〃）	351			
	計	4,252		計	995

関内地区	海岸通団地（自）	260	関内	海岸通・北仲通・元浜・本町・南仲通（町）	90
	北仲通宿舎（〃）	130		弁天通・太田・相生・日本大通（〃）	185
	弁天通（町）	180			
	太田町（〃）	250			
	相生町（〃）	400			
	住吉町（〃）	265		住吉・常盤（〃）	85
	常盤町（〃）	250			
	尾上真港会	200		尾上・真港・桜木（〃）	113
	計	1,935		計	473
埋地地区	三吉・千歳（町）	122	伊勢佐木南部	千歳・三吉（町）	166
	山吹町・富士見町・長者町3・4連合（町）	280		長者町3・4丁目・富士見・山吹（〃）	152
	山田町（〃）	120		長者2丁目・山田（〃）	162
	山田町団地（自）	160			
	山田町第3共同ビル（自）	72			
	山田町第1，第2団地（自）	190			
	埋地七ケ町連合（町）	700		吉浜・松影・寿（〃）	260
	翁町，吉浜町，不老町，万代町の全域，寿町，扇町，松影町の各1部			扇・翁・不老・万代・長者町1丁目（〃）	300
	寿地区（自）	3,000			
	長者町1丁目（町）	150			
	計	4,799		計	1,040
石川打越地区	石川町1丁目（町）	380	石川打越	石川1丁目・石川2丁目（町）	286
	石川町2丁目（〃）	350			
	石川町3丁目東部（〃）	140		石川3丁目（〃）	326
	石川町3丁目西部（〃）	300			
	石川町4丁目（〃）	160		石川4丁目・石川5丁目（〃）	165
	石川町5丁目（〃）	320			
	打越（〃）	420		打越（〃）	163
	計	2,070		計	940
第2地区	新山下1丁目（自）	600	加賀東部	新山下第1（町）	260
	新山下2丁目（町）	435		新山下第2（〃）	272
	新山下町団地（自）	56			
	新山下3丁目自治運営会	135		新山下第3（〃）	78
	山下町（自）	1,250		山下町第1，〃第2（〃）	520
	山下公園団地（自）	124		山下町第3，〃第4（〃）	530
	山下第二団地（自）	70			
				水上（〃）	1,000
	元町自治運営会	800		元町東部（〃）	242
				元町西部（〃）	175
	計	3,470		計	3,077

第3地区	麦田町（町）	514	山手	麦田（町）	178
	柏葉（〃）	680		柏葉（〃）	188
	鷲山竹之丸（町）	1,150	北部	鷲山竹之丸（〃）	193
	西之谷（町）	510			
	西之谷陸（〃）	175	山手上野	本牧緑ケ丘・西ノ谷（〃）	84
	本牧緑ケ丘（自）	410	根岸山元	豆口・仲尾台（〃）	351
	本牧緑ヶ丘（町）	390		滝ノ上，旭台，皇洋会（〃）	189
	全日空社宅（〃）	80			
	豆口上（町）	420	山手上野	上野1丁目東部，上野2丁目東部（町）	130
	仲尾台，豆口台，滝，上（自）	620			
	上野町1・2丁目東部（〃）	300		上野1丁目南部，上野2丁目南部（〃）	70
	上野町1・2丁目南部（町）	270			
	上野町3・4丁目妙香寺台（町）	380		上野3・4・妙香寺台（〃）	185
			山手	大和町，立野（町）	214
	大和，立野（町）	950	加賀東部	山手東部（〃）	242
	山手東部（〃）	485			
	計	7,334		計	2,024
第4地区南部	本牧1丁目中台（町）	300	山手中部	本牧1丁目東・中台（町）	165
	本牧1丁目東（〃）	450		本牧1丁目南部（〃）	190
	本牧1丁目大鳥（自）	800			
	本牧2丁目南部（町）	410		本牧2丁目南部・北部（〃）	175
	本牧2丁目北部（〃）	535			
	本郷町1丁目（〃）	120		本郷1・2丁目（〃）	185
	本郷町2丁目（〃）	165			
	本郷町2丁目（自）	56			
	本郷町3丁目（〃）	550		本郷3丁目第1・第2（〃）	480
	本郷町3丁目第2（〃）	510			
	計	3,896		計	1,195
第4地区北部	千代崎町1・2・3（自）	565	山手上野	千代崎町1・2・3（町）	153
	千代崎町4丁目（町）	280		千代崎町4（〃）	116
	北方1丁目（〃）	530		北方1丁目	142
	北方2丁目（〃）	200		北方2丁目・小港1丁目（〃）	156
	小港町1丁目（〃）	240	山手中部	小港2・3丁目（町）	144
	小港団地（自）	655			
	小港町3丁目（町）	220			
	諏訪町（町）	130	山手上野	諏訪（町）	81
	計	2,820		計	792

第5地区	望洋（自）	580
	本牧住宅（〃）	142
	間門荒井交友会	855
	本牧4丁目（町）	460
	本牧元町南部（〃）	605
	本牧元町北部（〃）	555
	本牧元町東部（〃）	336
	本牧大里町（〃）	560
	本牧三之谷（〃）	730
	根岸町（自）	900
	錦町（〃）	1,300
	横浜マリンハイツ1号館（自）	136
	横浜マリンハイツ2号館（〃）	136
	三渓台（〃）	145
	計	7,440
第6地区	山元町1丁目（町）	300
	山元町2丁目（〃）	425
	山元町3・4・5（〃）	520
	西竹之丸（自）	575
	大平町（町）	630
	簑沢・寺久保（〃）	700
	簑沢台（自）	180
	滝之上・旭台（町）	340
	滝之上団地（自）	95
	山手西部（自）	255
	山手コーポラス（自）	86
	計	4,106
	合計	43,947

本牧	間門本牧荒井（町）	398
	本牧4第1・第2（〃）	215
	本牧大里・本牧元町南（〃）	594
	本牧元町北	350
	本牧和田，三ノ谷（〃）	270
	本牧十二天・本牧3丁目（〃）	144
根岸山元	根岸（町）	379
	計	2,350
根岸山元	山元町1丁目（町）	104
	山元町2丁目（〃）	180
	山元町3・4・5丁目（〃）	290
	西竹之丸（町）	165
	大平町（〃）	189
	簑沢・寺久保（〃）	248
	滝ノ上・旭台・望洋会（〃）	189
山手北部	山手西部（町）	146
	計	1,511
	合計	15,058

表：7—1　連合町内会長氏名　（昭和59年4月1日現在）

第1北部地区	秋葉義七	第3地区	柴田梅吉
第1中部地区	北村清之助	第4地区南部	明城周太郎
関内地区	川島寿雄	第4地区北部	稲毛都光
埋地地区	大久保武	第5地区	木村宗吉
石川打越地区	小林仁造	第6地区	岸本益男
第2地区	荒井正治		

（中区役所文書より作成）

ものの自治を取り仕切れる筈はなかった。これにたいして町では自ら防犯協会、赤十字奉仕団、街灯管理委員会、などと名称を変えて実質的な町内会が結成されていき、全市的に町内会が次々と誕生していった。

二十六年（一九五一）講和条約締結後、進駐軍による法的規制が解かれたことにともなって、これらの町内組織が新たな町内会に改組されていった。

◉戦後の各種団体組織――一方、中区においては二十三年（一九四九）五月一日には戦没軍人遺族援護に関する諸法令の周知のための中区遺族会、二十五年三月には中区赤十字奉仕団と赤十字運動推進委員会、二十六年四月には地域福祉増進のための中区社会福祉協議会、二十七年二月には国連思想普及のための日本国際連合協会神奈川県本部横浜市支部中区分会、また六月には神奈川県共同募金会中区支会委員会、九月には司法協力機関として中区保護司会、二十九年四月には、婦人の地位向上と文化活動の確立をめざして、各婦人団体の連絡協調を行う中区婦人団体連絡協議会などの住民組織が結成された。

◉新生の町内会――三十一年（一九五六）、市は新しい市民組織として町内会組織を育成する方針を打ち出し、町内会側はこれに応じた。そしてその事業の一つとして、折から市が計画した広報紙（広報よこはま）の全戸配付をすることも決定された。またこの頃新しく開発された地域や都心部でも、従来の町内会の名称を使わず自治会と称する住民組織が次々と誕生していった。

また、弘報委員会の活動は停滞し、委員の選出母体は町内会と変り、三十五年には発展的に解消した。

この頃になると町内会も次々と結成された。自治会・町内会をまとめ、おおむね一小学校通学区域単位に地区連合町内会が結成された。現在中区では十一地区の連合町内会が結成されている。

三十六年からは、行政区毎に地区連合町内会をまとめた区連合町内会長連絡協議会が結成され、さらに各区の区連合町内会長連絡協議会をまとめた市連合町内会長連絡協議会が設置された。

◉さらに各種団体――この三十年代には、各種の市民団体が、つぎつぎと誕生した。三十年（一九五五）四月、区内の各商店街の振興を目的として中区商店街連合会、三十四年四月には子どもたちの健全育成をはかるために、中区こども会連絡協議会、三十五年三月更生保護事業にたいしての協力機関として中区更生保護婦人会、三十七年十一月老人福祉の推進をはかるために中区老人クラブ連合会、翌三十八年一月には選挙啓発運動推進のための明るい選挙推進協議会、六月には、さきにもふれたが区内の地区連合町内会の相互及び関係機関との連絡調整のために中区連合町内会長連絡協議会、この年の七月には市民スポーツの振興を目的として中区体育指導委員連絡協議会、保護観察行政への協力をする神奈川県保護観察中支部委員会、そして、三十九年五月、区民を交通事故から守り、効果的な交通安全運動を推進する中区交通安全

表：8　中区各種団体一覧表　　(昭和59年4月1日現在)

団体名	発足年月日	代表者氏名	委員・会員等人数
中区遺族会	昭和23. 5. 1	杉元恒雄	会員649
中区赤十字奉仕団委員会	25. 3. 22	小林仁造	委員32　団員882
中区赤十字運動推進委員会	25. 3. 22	中区長	委員37
中区社会福祉協議会	26. 4. 1	高田重二郎	会員296　(うち理事，評議員　79)
日本国際連合協会 神奈川県本部横浜市支部中区分会	27. 2. 16	中区長	
神奈川県共同募金会中区支会委員会	27. 6. 1	上保嘉保	委員36
中区保護司会	27. 9. 2	上保嘉保	会員58
中区婦人団体連絡協議会	29. 4. 1	加藤愛子	各団体会長28
中区商店街連合会	30. 4. 1	北村清之助	商店会39 店舗 2,097
中区こども会連絡協議会	34. 4. 1	深谷勝芳	51団体　22
中区更生保護婦人会	35. 3. 23	竹間浦子	会員65
中区老人クラブ連合会	37. 11. 9	赤松二郎	会員 6,000 理事 78
中区明るい選挙推進委員会	38. 1. 9	彦由亀一	委員9 推進委員143
中区連合町内会長連絡協議会	38. 6. 18	小林仁造	11地区 11連合町内会長
神奈川県保護観察協会中支部委員会	38. 7. 1	中区長	委員17
中区体育指導委員連絡協議会	38. 7. 1	鴻池宗男	118
中区交通安全対策協議会	39. 5. 20	中区長	19
中区青少年指導員協議会	43. 4. 1	柴田梅吉	121
中区福祉の風土づくり推進委員会	53. 1. 28	加藤愛子	委員24
神奈川県第54団 ガールスカウト日本連盟	53. 5. 21	川村初子	母親15 リーダー9
ヨコハマさわやか運動　中区本部	53. 9. 12	中区長	委員46
ボーイスカウト　神奈川県連盟 横浜みなと地区中区連絡会	55. 4. 1	小川登美男	各団委員長副委員長　8～10

(中区役所調べ)

対策協議会などであった。

そして、四十三年（一九六八）には、青少年健全育成を目的とした中区青少年指導員協議会が結成され、五十三年（一九七八）には一月に福祉の風土づくり推進委員会、五月には神奈川県第五四団ガールスカウト日本連盟中区連絡会、そして市長が提唱し市が運動を展開する横浜さわやか運動中区本部、そして五十五年四月ボーイスカウト神奈川県連盟横浜みなと地区中区連絡会などがそれぞれ結成された。各種団体は表8のとおりである。

◉町内会活動――現在、区民による組織として各種の団体が活発に活躍しているが、その個々を割愛し、町内会・自治会の活動において現在、通常行われている事業だけあげておきたい。

1、環境整備事業……防犯灯の維持管理・薬剤配付・清掃美化・防火防犯活動・交通安全実践活動・同施設整備・防災機材整備・防災訓練・さわやか運動参加実践・歳末夜警など

2、社会教育事業……早起き体操・子供会・婦人部活動など

3、レクリエーション……盆踊り大会・祭礼・旅行会・運動会・ゲートボール大会・野球大会など

4、福祉厚生事業……敬老会・廃品回収・物品あっせん・施設慰問など

5、文化的事業……各種講演会・各種講習会・映画会・写真等の展覧会など